

れいわ ねんど

こ

ぶんかげいじゅつしやうれいじぎやう

令和三年度

ひこね子ども文化芸術奨励事業

なつやす

ぶんげい

たんかぶもん

夏休み文芸テキスト

【短歌部門】

うち まな

お家で学ぼう！

じぶん ちから つく

自分の力で作ってみよう！

たんか

『短歌ってなあに』

たの

たんか

つく

かた

(楽しい短歌の作り方)

しゅ

さい

ひこねし

ひこねしきやういくいんかい

主催 彦根市・彦根市教育委員会

きやうりよく

ひこねぶんげいきやうかい

協力 彦根文芸協会

たんか

1 短歌ってなあに

①

たんか せんねんいじようむかし わか い まんようしゅう
「短歌」は千年以上昔から「和歌」と言われ「万葉集」や
ひやくにんいつしゅ よ
「百人一首」にも詠まれてきました。

②

たんか みじか し
「短歌」というのは「短い詩」のことです。
ぜんたい さんじゅういちもじ ご しち ご しち しち ことば
全体で三十一文字。五・七・五・七・七の言葉をつないで、
みじか し
短い詩にします。 リズムが大切で、たとえば
たいせつ

わたくしは 五
さくらももこと 七
もうします 五
どうぞよろしく 七
おねがいします 七

あ
合わせて
さんじゅういちもじ
三十一文字に
なります

にほんご なにげ はな たんか
このように、日本語は何気なく話しても 短歌の形になります。
にほんご たんか む
それは、日本語が 短歌に向いている言葉 だからです。
ことば

③

たんか いっしゅ にしゅ かぞ
短歌は「一首、二首」と数えます。
たんか つく
短歌を作るときを「歌を詠む」と言います。
うた よ い

④

作り(詠み)終つたら、表したいことがうまく詠めているか、
字句をさまざまに 考え練ること(推敲といいます)が
大切です。

・ もう一度これでよいか、声を出して読み直してみよう。

・ 一首に、あれもこれもと沢山になりすぎないように、シンプルに

詠みましょう。

・ どうしても字の数が合わない時は、字足らずよりも字余りの方が
良いです。



2 たの たんか 楽しく短歌を作るために

① からだ 体じゆうで感じとってみつけよう。

① 目で見ると ② 耳で聞く ③ 鼻で感じる

④ 舌で感じる ⑤ 物にふれて感じる

五感(五つの感覚) 視・聴・臭・味・触) といいます。

自分の心を感じたことを 自分の言葉で表現してみよう。

② こころ ひび 心に響いたことを大切にしよう。

① 一瞬のときめき ② 嬉しいこと ③ 哀しいこと

④ 淋しいとき ⑤ 自分だけの発見

これを、短歌にしようと言葉を選んで書くことが大切です。

③ か ないよう じゆう じぶん み テーマ(書きたい内容)は、自由です。(自分で見つけよう！)

① 夏休み ② 空 ③ 雲 ④ 彦根城

⑤ 伊吹山 ⑥ びわこ ⑦ 芹川 ⑧ 荒神山

⑨ 家族(祖母、父、母、兄弟姉妹) ⑩ 友達

など

④ 「〇〇を見て 私はこう思う」は、短歌を詠むのに、
大切なフレーズ（一区切りの言葉）ですから、友達の良い短歌を
参考にしてください。

⑤ 気を付けたいこと

◎ 人をいやな気持ちにさせる言葉や、人の悪口は、読んでみて、
心に響きませんので、書かないようにしましょう。

さあ、皆さん！

のびのびと自由に、発見や感動をそのまま詠いましょう。



4 小学生・中学生の短歌を紹介します。

(過去の「ひこね子ども文芸作品」より)

るるるん みんなであるく たんぼみち

ランドセルたち スキップしてる (小学一年生)

いってきます ドアをあけたら スイッチオン

今日も元気に 学校行くぞ (小学二年生)

夜の空 ドンとひらいた 大花火

ぼくの心は ハッピーになる (小学三年生)

木の葉とね 木の葉があくしゅ しているよ

緑のトンネル 作っているよ (小学四年生)

竹の声 風に吹かれて さやさと

私の耳に ないしよの話 (小学五年生)

楽しみは 海で釣りをし 大物が

釣れてあばれて さおしなる時 (小学六年生)

神さまが 助けてくれた この命で

世界を救う レスキュー隊に (中学一年生)

今までに やってきたこと 出し切って

笑顔で終わろう 最後の大会 (中学二年生)

さんこう

5 参考に

（有名な人の詠んだ短歌・解説）

少し難しいかも知れませんが、読んでみてその意味と、作者の気持ちを
感じてみましょう。

● 金色のちひさき鳥のかたちして 銀杏ちるなり 夕日の岡に

与謝野 晶子

秋の夕日に金色に光りながら落ちていく銀杏の葉は、小さな小鳥のよう
だと読む人に伝えています。

（旧かなづかい・文語）

● 白鳥は 哀しからずや 空の青海のあをにも 染まずただよふ

若山 牧水

白い鳥は、まわりの色に染まることなく、水と空の間をただよっている。
自分も白い鳥のように 世の中の色に染まることができないのは、哀しいと
言っています。

（旧かなづかい・文語）

7	7	5	7	5

7	7	5	7	5

6 作品を作ってみよう

さくひん つく

じぶん かんが づく

(自分で考えて作ってみましょう)

